



編集 社会福祉法人おおぞら会 アクティビティーセンターはばたけ
編集責任者 三浦 明雄

〒181-0014 東京都三鷹市野崎3-17-9
tel 0422-32-3234 fax 0422-32-3274
URL <http://habatake.jp/>

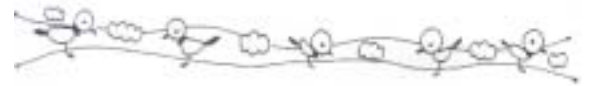


喫茶室・香草亭

アクティビティーセンターはばたけの一角に、
どなたでもご利用にあ“香草亭(こうそうてい)”があります。
自慢は、国内産小麦など厳選素材で作ったクッキーとパウンドケーキ。
おいしいコーヒーもご用意しています。
お買い物や武蔵野散策のおり、どうぞお気軽にお立寄りください。

営業時間：月～木 AM10:00～PM4:00 / 金 AM10:00～PM3:30
日曜・祝日はお休み

～ 施設長のひとりごと ～



何事も再生は難しい。太って出たお腹、破壊された遺跡、汚れた川などなど。異常をきたした要因が複雑なほど回復も難しい。経済や社会のしくみとなると尚更である。

日本の予算の半分近くが国債に依存し、累積赤字額が国民一人当たり300万円余りという状況は、当面回復の兆しさも見られない。こうした時に「もうひとつの日本は可能だ」(内橋克人著)とか「地域再生の経済学」(神野直彦著)というテーマは魅力的だ。両者に共通しているのは、グローバリズムを背景とした市場主義経済に対する警鐘であろう。

身近な例でいえば、BSEや鳥インフルエンザが流行するとたちまち食料の危機が訪れる。不正表示も手伝って、日々半信半疑で食品を口に運んでいる。これは、どうも食品の画一化(ファーストフード化)と大量生産が、食糧自給を後退させてきたことに起因しているらしい。穀物自給率で見ると、1960年代における日本やドイツ、イギリスはほぼ同じ60%くらいだったが、現在ではイギリスもドイツもほぼ100%を超え、フランスにいたっては200%、デンマークは300%であるのに対し、日本は20%台にまで落ち込んでいる。また、エネルギーを見ると、デンマークは20年前までは日本と同じように中東の石油に大きく依存し、エネルギー自給率はたったの1.5%だったが、今日では風力発電など再生可能なエネルギーへの転換を図り、自給率は120%近くとなっているという。

何が違うのだろうか。筆者によれば、それは「地域の自治」とそれを醸造させる仕組みの違いにあるようだ。確かに「街づくり」という言葉一つとっても、区画整理や環境整備が中心で、教育、医療、福祉サービスといった相互扶助は弱い。地域で互いに助け合いながら高環境をつくるよりも、サービス事業者との関係で何とか自分の生活を保つことに必死である。だから、障害者は、地域生活をしようとした途端に、「迷惑をかける存在」、「自分たちには関係ない存在」として排除の対象となってしまうがちだ。

障害者、とりわけ知的障害者や精神障害者は、「人体の小宇宙」と言われる脳に障害をもつ人たちだ。したがって、その再生はとても困難である。しかも、地域の状況によっては、地域生活の再生さえも閉ざされる。これまでの障害者福祉は、「収容」「隔離」という方法でこの問題に対処してきた。

しかし、それは間違いであった。同じ過ちを繰り返さない
方途を私たちは考えなければならない。

この道程は長くて困難だ。何よりも体力勝負。だからというわけでもないが、今年僕は40代はじめに果たしたフルマラソンに再び挑戦しようと企んでいる。

(みうら あきお)



“はばたけだより”がホームページに登場!

<http://habatake.jp>

次号より“はばたけだより”の紙面がホームページで閲覧できます。よりたくさんの方々に読んでいただける紙面づくりをめざしていきますので、ぜひ、ご感想などもお寄せ下さい!

みんなの暮らし、自分の暮らし...

生活支援委員会・語ろう会

vol.2

前号でお伝えした「生活支援・語ろう会」の取り組み...。その概要として、はばたけの抱える課題... はばたけの利用者のほとんどが親との同居で、高齢化とともに将来の不安を抱えるご家族、“グループホームで暮らしたい”という希望を持っていてもその実態を知らない利用者、また“親亡き後”の暮らしそのものをなかなかイメージできない人も多い...ということについて触れました。

こうした現状の中、12月から現在3回にわたって利用者の人たちが“自分の暮らしを考える”取り組みをしてきました。今回は12月と1月の話し合いの様子を覗いてみます...

グループで“暮らし”を語ろう！

ビデオに出てきたのは、同じ障害をもつ人たちが暮らす“グループホーム”。地域の普通の一軒家に4人の方と世話人さんとして生活していました。難しいところは助け合っている姿や、仕事に出かける場面、中には結婚を考えているというカップルの姿もありました。(結婚の話には利用者からとっても反応がありました!)・・・「みんなは誰と暮らしているの?休みの日はどんなことしていますか?」そんな職員の問いかけをきっかけに、グループで感想や意見を自由に出し合いました。



普段なかなか話せないことや本音がポロッと出たり...“やっぱりグループホーム!” “まだわからない...” など結論は様々。でも、その様々な感想や意見こそが、それぞれの考えた証しだと思います。

今回の取り組みでは、“他の暮らしを知る。自分の暮らしを振り返る。違いを知る。そして、自分はどうしたいのか考えてみる”ということをして、それぞれの理解や認識、ペースに合わせて組み立てました。そこには、日頃の活動時間の流れの中で、私たち職員がきちんと捉えてこれなかった利用者の思いがありました。しかし、話し合いの場(集団)が苦痛な人、生活について今と違うことそのものに不安を感じたり先を見通すことが難しい人もいて、まだ伝え方・アプローチの方法など課題も残っています。でも、この積み重ねそのものが利用者にとっても、また一緒に考えていく職員にとっても大事なのではないかと感じています。

・・・さて、次回は実際にグループホームへ見学に行った様子、その感想・発表の様子をお伝えしたいと思います!・・・

祝

三鷹駅伝完走しました！



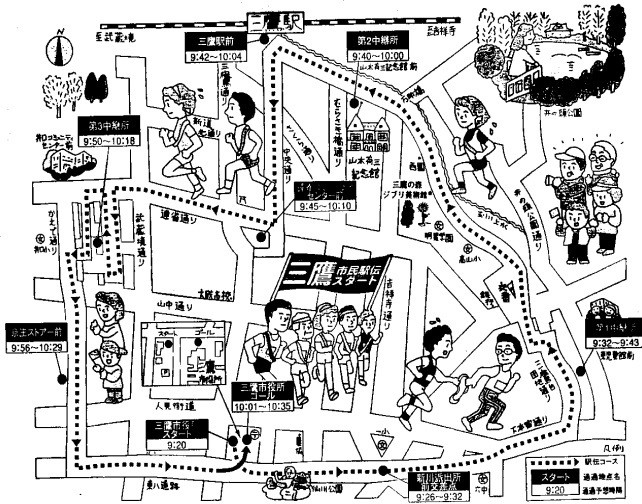
～喜びにわくメンバーたち、「たすきをつないだぞ、OH！～

冬の晴れ間が広がった2月2日、第12回三鷹市民駅伝が行われました。今回、我らははばたけチームは全区間をメンバーで組み「制限時間内に完走すること」を目標に練習を重ねてきました。

そして結果は・・・無事に完走！メンバー全員で1本のたすきをつなぐことができました。難関と思われた制限時間との闘いも、沿道の家族や市民の方々の声援に励まされながら乗り切ることができました。

この3ヶ月間、昼休みに練習を積み重ねていく中で、メンバーのいろいろな様子を見ることができました。途中で疲れて歩いていただけが少しずつ走れるようになった人、大会用に新しいシューズやトレーニング・ウエアを新調してきた人、準備のストレッチ終了後にロケットのように走り出す人・・・走る苦しさとともに、体を動かすことの楽しさや、みんなの素敵な表情をたくさん見ることができました。

大会のアンカーを飾る第4区を走った瀬戸さんは、大会終了後「マラソン一等賞を走れた。よく頑張った。来年も出たい。村井さんみてる。」とコメントしてくれました。来年も頑張るぞ。目標は・・・駅伝ポスターのモデルだ！？



駅伝大会記録・はばたけチーム
 《記録 1時間15分38秒》

第1区(3.9k) ささき選手
 17分44秒

第2区(2.6k) ごとう選手
 16分45秒

第3区(3.3k) いいじま選手
 22分6秒

第4区(3.5k) せと選手
 19分3秒

三鷹市のみなさま、大会当日はご声援まことにありがとうございました！
 ~アクティビティセンターはばたけ~

伊豆にて奮闘中！…もりさん
 せん
 「千」がんばってま〜す！！

通い慣れたはばたけを離れ、伊豆でご家族と一緒に新しいスタートを切った もりさん。

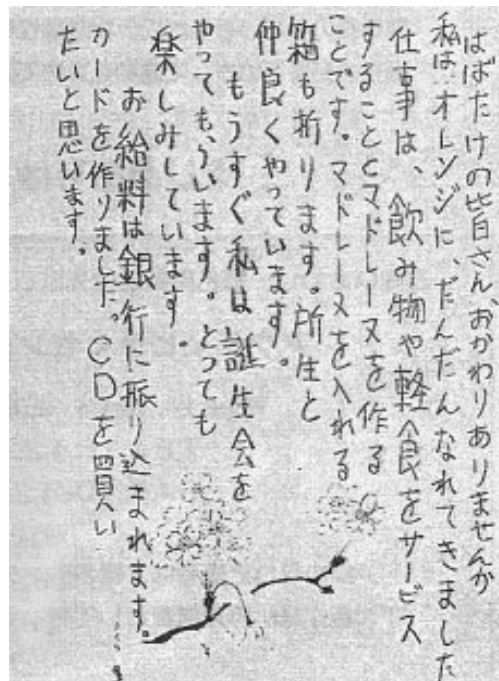
1月20日のお別れ会では、もりさんとの数え切れない思い出を懐かしみつつ、新たな旅立ちにみんなで熱いエールを送りました。

『千と千尋の神隠し』の「千」と同じように小さな体でありながら、何事にも一生懸命取り組んでいた もりさん。

仕事先の「ゆばた作業所」でも、早く仕事に慣れるよう、日々頑張っている姿が目につきます。作業所の仲間とも、あのユーモアと明るさですぐに仲良くなり、毎日楽しく過ごしていることでしょうね。

これからもずっと、はばたけの仲間は もりさんの応援団です。

また、みんなの「千」に会える日が来るのを楽しみに待っています！



もりさんから便りが届きました！

27年休まずに“千々々 千々々” 今はもう6000ヵ所 動いてよ厚労省

きょうされん第27次国会請願署名・募金運動にご協力を！

毎年、みなさまより多大なご協力をいただいております、きょうされんの国会請願も、今年で第27次を迎えました。これまで積み重ねてきた運動は、小規模通所授産施設を生み出す、原動力となりました。しかし、補助金の水準は低く、例えば知的障害者通所授産施設の約5分の1程度の額でしかないなど、多くの問題を残しています。また国は2004年度の予算において、小規模作業所に対する唯一の補助事業について2003年度に続き一割を削減しました。

一方、自己選択、利用者本位を謳い文句にスタートした支援費制度ですが、選ぶだけの施設がないのが実情です。受給者証は手にしたけれどもサービスが受けられない、といったことがおきています。とりわけ、地域生活移行の上で重要なグループホームは大変不足しています。

こうした問題点を抜本的に改善するため、国会請願・募金活動を行っています。障害のある人たちが、安心して地域で生活していくための署名と募金にご協力をお願いします。

* きょうされん(旧称:共同作業所全国連絡会)は、成人期の障害のある人々や、家族、関係者のねがいをもとに、小規模作業所問題の解決をはじめとする、わが国の障害者福祉の発展をめざして運動を進めています。 <http://www.kyosaren.or.jp>

しめきりは3月末までです！

お問い合わせ・署名用紙送付先はこちらまで

アクティビティセンターはばたけ 国会請願係

〒181-0014 三鷹市野崎3-17-9

TEL 0422-32-3234

FAX 0422-32-3274 担当 立野

集められた募金は、署名運動の資金、全国大会への利用者の参加費用、各作業所の運営費として有効に活用させていただきます。

活動日誌 1月1日(月)～2月27日(金)まで



1月 5日 (月) 初詣、書初め	2月 1日 (日) 三鷹市民駅伝大会
6日 (火) 家族会懇談会	4日 (水) 家族会懇談会
9日 (金) 職員会議	5日 (木) グループホーム見学(三鷹市・ピア井の頭) (調布市・すてっぷ)
15日 (木) 福祉懇談会	12日 (木) グループホーム見学(武蔵野市・やはたハウス)
23日 (金) ブロック交流祭(三鷹市公会堂)	13日 (金) 職員会議
25日 (日) 評議員会、理事会	19日 (木) グループホーム見学(国立市・ゆうゆう)
28日 (水) 総括会議	20日 (金) 連続講座(講師:小野純平氏/法政大助教授)
30日 (金) 職員会議	26日 (木) 方針会議



来訪された方々

TKC・吉田様 中央設計・高田様 日建工業・片岡様 相和建設・挽野様 永井様
 ひまわり第三作業所・山口様 ノアノア・榎本様 ワークショップ MEW 様
 千川福祉会様 滝乃川学園様 街かど自立センター様 地域生活支援センターぼっぷ様
 武蔵野市 CW・中対様 三鷹市 CW・井藤様 府中朝日養護学校・大和田様・嘉義様・関口様
 飯島意匠・飯島様

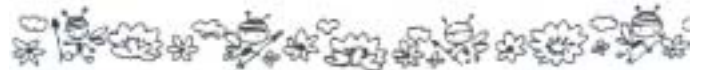
実習生の方々(社会福祉援助技術実習・介護等体験・養護学校進路実習)

東京学芸大学 横山晶様

ボランティアの方々～いつもありがとうございます！

佐々木久人様 岡村正実様 末日聖徒キリスト教会様 後藤幸雄様
 山梨太郎様 井上麻由子様

おおぞら会後援会ニュース



2003年度後援会総会の日程が決定しました。5月21日(金)PM7:00からの開催となります。お忙しい中とは存じますが、ぜひご参加下さい。

～ 後援会新規ご入会・ご更新ありがとうございました ～

2003/12/17～2004/2/14の間に、個人7名、団体1社からご入会・後更新をいただきました。

後援会へのご入会・今年度分のご更新をお願いいたします

年会費 1口 個人 2,000円 団体 10,000円

年会費は、お手数ですが直接お持ちいただくか、下記の口座にお振込み下さい。よろしくお願ひいたします。

郵便口座 00160-0-39163

口座名義 社会福祉法人おおぞら会後援会

information

はばたけの織り展

・・・はばたけ ており班 作品展・・・
ひとりひとりの気持が織り込まれた、
一つとして同じものはない作品たち
です。世界に一つの色彩と感性をお
楽しみ下さい。(販売もしています!)



3月1日(月)～31日(金)

場所：食茶房むうぶギャラリー

月・火・木・金 11:30～15:30
(水曜日・土日祝 定休)

食茶房むうぶギャラリー

「食茶房むうぶ」は精神障害のある人たちが働くレストランです。素材にこだわったおいしいランチ
やコーヒーもいっしょにどうぞ。(三鷹・吉祥寺・調布よりバス15分「杏林大学病院前」下車すぐ)

予 告

はばたけ芸術展

4月20日(火)～25日(日) 場所：三鷹市美術ギャラリー

三鷹駅南口下車すぐ 三鷹コラル5F(第一展示室)

10:00～20:00(入館は19:30まで) *初日は14時より、最終日は17時までになります*

アクティビティセンターはばたけに通う、アーティストたちの作品展です。
一人一人の夢、願い、喜び、楽しいこと、大切なこと...心の声がつまっています。
是非、観に来てください。

[編集後記]

恐怖の年度末...真っ只中である。施設内の総括・方針をまとめなければならない時期。
はばたけは小さい施設なので各職員の受け持ちの比重も大きい。最近みんな遅くまで
残ってパソコンとにらめっこの日々である。私もずいぶん前に「今年こそ計画的に」と、
気合を入れてカレンダーに締切日を記したが、結局直前になってパタパタ...。思えば学
生の時からこんな調子だ。でも、担うものの大きさはその時の比ではない。自分をタフ
だと思っていたが、最近ストレスが身体に出てくるようになった。もっと上手に自
分とつきあっていかなきゃいけない...とこれは自分の方針。さあ、もうすぐ新年度。
大事なのは実行すること!...である。(いとう あきこ)

発行 障害者団体定期刊行物協会 〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21		
企画・編集 アクティビティセンターはばたけ		
編集責任者	三浦 明雄	頒 価 50 円
編集委員長	伊東 暁子	
編集委員	ト部 禎生	
	深澤実希子	